

いそべ圭太 2期8年間を
振り返って

2期8年間の任期もあっという間に終わろうとしています。定期的に発行してきた活動レポートは、数えれば8年間で32号になりました。

1期目で成果が出たこと、2期目で成果が出たこと、継続して取り組みたいこと、新たな課題など、様々あります。この8年間の中で、様々なことを議会の内外で発信してまいりました。議会では様々な機会に、質問・指摘・提言をしてまいりましたが、特に2期目のこの4年間で、「いつ」「どのような」活動を、情報をお届けしてきたのか、ここでは主な内容に限定して取りまとめてみました。

私のホームページでも公開していますので、どうぞご覧ください。

[いそべ圭太](#) [検索](#)

責任ある政治 実行力ある改革
生まれ育ったふるさと
保土ヶ谷のために

中学校昼食の充実

中学校昼食の充実は、8年間継続して取り組み、その結果、進歩の一歩として、選択式デリバリー給食と価格、栄養価とも遜色ない中学校昼食である、「ハマ弁」が導入されました。

今後は喫食率の向上、昼食時間の延長など、さらに充実した中学校の昼食になるように、取り組んでまいります。



政務活動費

政務活動費は、議会で定めている使途基準より厳格に執行しています。収支報告を毎年レポートやホームページで公開すると共に、領収書等の必要書類の開示も自主的に

行ってまいりました。

ある地方議員の政務活動費の使途が騒動となりましたが、任期開始当初より厳格に行ってています。

平成27年度	収 入	6,600,000円
	支 出	6,542,765円
	差し引き	57,235円

平成28年度	収 入	6,600,000円
	支 出	6,595,512円
	差し引き	4,488円

平成29年度	収 入	6,600,000円
	支 出	5,438,896円
	差し引き	1,161,104円

※平成28年4月に議員派遣(海外視察)により支出した経費分(1,160,000円)を政務活動費で調整しました。

※残金(差し引き)は、横浜市に返納しております。

活動報告は選ばれた政治家の責務です!

「政治家の仕事が見えない」よく聞かれる言葉です。

そんな市民のみなさんの声を払拭すべく、私はホームページや活動レポート、街頭活動、地域活動などを通じて、政治家が何を考え、どのような仕事をし、どのくらいの成果を出しているのか、市民のみなさんの判断の材料(脱・見えない)となる情報を「わかりやすく」そして、「見やすく」提供することを考え取り組んでまいりました。紙面等の都合で考えや情報が伝わり切れなかったこともあります。

私が取り上げる質問の多くは、日頃地域をまわっている中で、地域のみなさんからのご

意見、ご質問、ご要望などが基となっています。何気ない会話の中からも、市政に臨むヒントが多くあると感じています。そのため、情報、時間のあるかぎり、地域の各種行事をまわさせていただいている。実際に、いただいた声をいくつも議会での質問や、提言として代弁してきました。

政治家と話すことに慣れていない方々、世代に政治に関心をもっていただけます。声を議会に届けてほしい。そのような想いで私は議員を志しました。

「大切なことは何か」を常に考えて行動しています。

今後も、みなさまの声をお聞かせください!

横浜市会議員 磯部圭太プロフィール



横浜市立星川小学校／横浜市立保土ヶ谷中学校
神奈川県立保土ヶ谷高等学校／帝京大学法学院法律学科 卒業
横浜市内の民間企業を経て／平成27年横浜市会議員選挙 2期目当選
高校時代に生徒会長を経験／20代に自治会・町内会役員を経験
現在は青少年指導員(9年目)

横浜市会議員
いそべ圭太 政務活動事務所

〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田1-12-17 ホーユウパレス和田町
TEL 045-337-3331 / FAX 045-337-3332
E-mail keita-isobe@iso-becchi.com



[f](#) [QRコード](#) 日々の活動報告、政策など、内容盛りだくさん! 絶賛更新中!
[いそべ圭太](#) [検索](#) [▼FacebookページURL](#) www.facebook.com/isobekaitooffice

<http://www.iso-becchi.com/>

徹底した行財政改革で財源を確保し、
保土ヶ谷から市民本位の政治を実行する!

行政改革、財政改革を主な柱として、防災・減災対策、教育(いじめ問題を中心)、子育て、児童虐待防止対策、福祉、まちづくりなどの分野で取り組んでまいりました。

行政改革、財政改革は、口先だけでなく具体的な点を徹底した調査により発見、合理的な方法にあらためるように指摘しなければなりません。

私は、従来の予算要望型の議会審査だけでなく、使われた税金の中身をしっかりとチェックすることにより、市民のみなさんの財

産・税金を正しい使い方に導く努力を続けてまいりました。それが、決算審査に重点を置き、「行政の非効率な部分を解消することが行政改革」と位置付け、様々な活動に取り組んできました。

「外郭団体等の保有資産や市からの補助や委託が適切な状態であるかを徹底してチェック」もしてまいりました。その結果、様々な問題点が出てきて、指摘・提言をしてまいりました。



世界に誇れる最先端都市であると共に、自然も豊かな横浜。潜在的な経済力、市民力は計り知れないものがあるはずです。横浜はもっと豊かに、そして元気になる。

今はもちろん、将来の横浜を見据えて、市民のみなさんと一緒に豊かで元気な生き生きとした横浜の未来を切り拓いていきたいと

思います。

今年をピークに、横浜市でも人口が減少してきました。これからも日本一の基礎自治体「横浜」、いつまでも住み続けたいまち「保土ヶ谷」のために、人を育み、安全・安心な暮らしを確かなものにするという強い意志で、取り組みを推進してまいります。

平成31年2月28日までの活動報告

※紙面の都合により、主なやりとりのみ掲載しています。
※質疑の詳細等は、私のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
(ホームページをご覧になることができない場合、印刷したものをお届けいたしましたので事務所までお気軽にご連絡ください。)

5年目の所属委員会

水道・交通委員会	委員
孤立を防ぐ地域づくり特別委員会	委員長
決算第一特別委員会	委員(道路局審査・教育委員会事務局審査)
予算第一特別委員会	副委員長(都市整備局審査・総合審査)

本会議登壇 第2回定例会 討論

- 新市庁舎の北仲通南地区への移転の議決は尊重しつつ、現庁舎が抱える分散の課題は解決しつつも、財政負担は可能な限り抑えたものにすべきとの意見を述べる。オリンピック需要に伴う建設費、資材費、人件費の高騰と仕様の変更によるコスト面の課題を改めて指摘。

- 徴収すべき使用料や損害(交通事故による道路修繕費など)の債権が回収不能などにより欠損となったものを指摘しました。26年度は約550万円あり、徴収できていれば貴重な財源となりました。財源の確保と市民負担の公平性から、より一層取り組みを進めるよう指摘しました。

- 2年前の決算審査でも指摘をした、横浜市の土地を外郭団体に貸し付け、駐車場経営やコンビニエンスストアにまた貸しを継続し、利益を上げている状況を改めて指摘しました。横浜市からの無利子貸し付けや損失補償がある中で、人件費総額を7億1,600万円にする協約を守らず、約2千万円増えた問題も指摘しました。これだけの財源があれば、さらに借金の返済ができ、用途に疑問が残ります。今後も徹底した調査を続けてまいります。

- 保全が決まっている震災復興橋梁41橋のほかに、歴史的に価値の高い橋梁も保全活用すべきと提言し、貴重な財産を後世に引き継いでいく方向性がでました。翌日の神奈川新聞でも取り上げられました。

- いじめ防止対策推進法に関連する取り組みなどを確認し、形づくりだけにとどまることなく、実態に伴った取り組みを進めるよう提言しました。

- 私が委員長を務める孤立を防ぐ地域づくり特別委員会の今年度のテーマが「子どもの貧困」であり、社会の関心が高まっていることから、この問題に教育が果たす役割について教育長の見解を問い合わせ、関係局と連携して取り組みを進めるよう提言しました。

- 老朽化や大規模校にも関わらず、規模が小さい体育館の状況を指摘し、学校全体の総合的な建替え計画の策定や大規模校の優先順位の考え方などを確認しました。

- 保土ヶ谷駅東口のまちづくりを議論し、地域の要望や課題との向き合い方。そして、区との連携のあり方について提言しました。

- 羽沢・横浜国大駅周辺の交通インフラのあり方を議論し、自転車・バイク・自家用車で駅にアクセスする利用者への対応や駅の開業時・開業後の乗降客の見込み数や、加えてバス乗降場の規模の計画方法、将来の開発行為に伴うバス乗降場の不足対応などを提言しました

- いわゆる「ごみ屋敷問題」では、福祉的視点の重要性と共に、環境改善の重要性、対策をまとめ上げる強いリーダーシップの必要性などを提言しました。

- ダブルケアの問題について議論し、地域での子育て支援や介護などの福祉政策に加え、テレワークなどによる働き方の見直しやシェアリングエコノミーなどの必要性。また、インターネットを通じた市民相互の情報交換による、ダブルケア当事者の家事・育児・介護をソーシャルビジネスとして支援するなど、様々な分野で包括的に取り組む重要性を提言しました。

平成27年10月 決算委員会

平成28年3月 予算委員会

6年目の所属委員会

水道・交通委員会	委員
基地対策特別委員会	委員
決算第一特別委員会	委員(総合審査)
予算第二特別委員会	委員(消防局審査・政策局審査)

本会議登壇 第3回定例会 議案関連質疑 本会議登壇 第1回定例会 予算関連質疑

- いわゆる「ごみ屋敷」対策について、条例制定も含め全庁的なプロジェクトで検討する必要があると問題提起を行い、あれから2年半たち条例案が提出されました。
- 条例は、福祉的な面に重点を置きつつ、やむを得ない場合には、代執行により撤去ができる規定となっており、議論を行いました。

- いじめ問題について議論し、社会の関心が薄れた時に大きな問題が発生してしまう恐れがあることを指摘し、社会全体が高い意識をもって取り組んでいく重要性を提言しました。

- 課長級のポストに部長級が、部長級のポストに理事級の職員が配置されている問題点を指摘し、是正を求めました。

- 市内医療機関での事件発生を受け、横浜市の対応に問題点がなかったか、第三者委員会等を設けて検証するよう求めました。

平成29年2月 本会議

- 子どもの貧困に関連し、子ども食堂を始めとした地域の取組についての支援の方向性について議論、提言しました。

- 横浜開港当時に作られた旧イギリス海軍物置所の石積み護岸の価値と保存に向けた方向性を議論、提言しました。

平成29年2月・3月 予算委員会

- 急増する救急需要の中、その中心となるのは救急隊員、とりわけ救急救命士であり、その養成を確実に推進していくことは、今後さらに重要になってくると指摘しました。

- 地域の課題について、民間や行政の様々なステークホルダーが課題を共有し、対話を重ね、連携を図って解決に導いていくことが大切であると議論しました。

7年目の所属委員会

市民・文化観光・消防委員会	委員
基地対策特別委員会	委員
決算第一特別委員会	委員(総合審査)
予算第二特別委員会	委員(総務局審査・政策局審査)

本会議登壇 第4回定例会 議案関連質疑 本会議登壇 第1回定例会 議案関連質疑

- 更新年数を超過した救急車が車両トラブルを起こして救急活動ができなくなった例を挙げ、人の命を守る消防車両は早めに更新すべきと指摘しました。

- 障害児の保育所入所への配慮や受け入れる保育所の理解の必要性、障害にあった安全な保育をするための取組について議論しました。

- いわゆるペットの多頭飼育崩壊が社会問題となっている例を挙げ、横浜市の現状、今後の取組について議論しました。

- 昨年発生した市内医療機関での事件に関する外部からの情報提供について、どのように対応していくのか、公務員として職務に臨む意識などについて議論しました。

平成29年10月 決算委員会

- 横浜市における体罰の認定件数を指摘し、体罰は、児童生徒に対する人権侵害行為であり、学校教育法で禁止されている違法行為であり、職員間で指摘し合える風通しの良い学校を構築し、体罰を許さない学校をつくることが、一層必要であるとの答弁を教育長から受けました。

平成29年12月 本会議

- 地域ケアプラザのコーディネーターが日常業務の中で地域に接している現状、地域の高齢者の生活を支える活動についての重要性、地域の活動の把握、その情報を活用していく方法について議論しました。

- 水道料金のあり方について指摘し、現行の事業運営の経費だけでなく、将来の施設更新を見据えて検討していくべきだと提言し、特定の時期の利用者に負担が偏ることが無いように要望しました。

平成30年3月 予算委員会

- 横浜市の法務分野の職員の人材育成の重要性について議論しました。

- 国際園芸博覧会について議論し、花き造園産業をはじめ、農業協同組合、その他にもできるだけ多くの企業、団体に参加、協力をいただきながら進め、未来に向けて活力を生む、実りのある博覧会にしていただきたいと提言しました。

8年目の所属委員会

国際・経済・港湾委員会	委員
基地対策特別委員会	委員
決算第二特別委員会	委員(資源循環局審査・水道局審査)
予算第二特別委員会	委員(消防局審査・資源循環局審査)

本会議登壇 第3回定例会 議案関連質疑

- 小児医療費助成制度拡充について議論し、将来に渡って持続可能な制度となるよう要望しました。

平成30年9月 本会議

- 今後の災害廃棄物処理について議論し、防災は、自助、共助、公助の考え方がとても大切であり、災害廃棄物処理計画を踏まえ、実際に運用するマニュアルにしっかりと組み込んでいただきたいと要望しました。

- 水道管の老朽管更新・耐震化の問題について指摘し、近年の大規模地震をふまえた検討課題について議論しました。

平成30年10月 決算委員会

- 救急出場件数が8年連続で過去最多を更新し、20万件を突破したことについて議論。救急要請に至らないようにする予防救急の取組や、一時的に急増する救急需要に対応する増強救急隊の編成を議論し、77隊以上の救急隊の増隊を要望しました。

- 粗大ごみ受付センター、インターネット受付の改善について議論し、受付から収集までにかかる日数を短縮していくべきと要望しました。

平成28年9月 本会議

平成28年10月 決算委員会